

SKY コーナー

「平成29年度 安全推進大会 & SKYフォーラム」開催（九州支部）

“「私たちは過去の事故を教訓に類似事故を絶対に起こしません」ヨシ！”
-NTTグループと通信建設会社による合同開催-



情報通信エンジニアリング協会 九州支部

1. はじめに

安全推進大会 & SKYフォーラムは、平成22年からNTT西日本グループ（安全推進大会）と一般社団法人情報通信エンジニアリング協会九州支部（SKYフォーラム）との共催により大会が開催され、今日まで続いているものです。

安全行動の大切さを再認識し、NTTグループ各社および通信建設会社各社が一体となり、昨今の人身・設備・情報セキュリティ事故を教訓にし、「類似事故防止」に努め、チームワークで事故“ゼロ”に向けて取り組み、お客様からの信頼向上を目指すために毎年開催されています。

2. 開会式

平成29年10月31日（火）、福岡県宗像市のグローバルアリーナにおいて、「平成29年度安全推進大会 & SKYフォーラム」がNTTグループと情報通信エンジニアリング協会九州支部との共催で開催され、九州エリアのNTTグループ10社、通信建設会社4社から総勢約1,100名が参加しました（写真1）。

開会式では、NTT西日本取締役小澤九州事業本部長より、日頃から九州カンパニーの事業運営に協力いただいているお礼とともに、7月に発生した九州北部豪雨、8月から連

続して上陸した台風災害など、相次いで発生した災害に対してNTTグループ各社や通信建設会社が一丸となって復旧活動を行い、お客様サービスの早期回復に努めたことに対して感謝の言葉をいただきました。

また、本年度九州ブロックでは、ヒューマンエラーを防止する対策、過去事故事例の要因および深堀を行う事によって類似事故防止に取り組んでおり、本大会もそれらの一環として実施するものであり、今後も九州内のNTT西日本グループ各社および通信建設会社各社の結束力をさらに強め、全社一体となった取組みを期待するとの挨拶をいただきました（写真2）。

続いて、情報通信エンジニアリング協会九州支部熊本支部長から、昨年11月に発生した博多駅前の陥没事故において、劣悪な環境の中にもかかわらず約1週間の短期間で収束していただいた関係各社へのお礼と福岡市から早期復旧に対して表彰された旨を紹介されました。

人身事故絶滅に向けては、会員各社ともに安全作業の徹底に取り組んでいるが、7月に大分において転落死亡事故が発生した。痛ましい類似事故を二度と起こさないために、基本動作の徹底・近道行動の防止の観点から、作業者とデスク間での2WAYによる安全確認の取組みを実施していること、また、本大会を通じて、危険性に関する感性を高め現



写真1 第一会場模様



写真2 小澤九州事業本部長あいさつ



写真3 熊本支部長あいさつ

場作業に活かしていくことで「ゼロ災」を実現しNTTグループの発展に寄与することを期待するとの挨拶をいただきました（写真3）。

開会式の最後に、株式会社SYSKENの赤塚社員のリードにより、参加者全員で「安全唱和」を行いました（写真4）。



写真4 参加者全員による「安全唱和」



写真5 土屋博一氏

3. 第一会場

(1) 講演

第一会場では、『鉄道事故から学ぶ安全』と題し、株式会社JR東日本パーソナルサービスの土屋博一氏による講演がありました。

事故の未然防止対策としては、特に、指差呼称（JRでは喚呼）によるヒューマンエラー防止を重要視していること、社員への安全教育の重要性などの内容について講話いただきました（写真5・図1～3）。

(2) 実演・体感

株式会社エヌ・ティ・ティ・ネオメイト九州支店とNTTフィールドテクノ九州支店により「VR危険体感コーナー」を第一会場の1F・2

Fの2カ所に設けました。

「VR危険体感コーナー」

【体感概要】

ヘッドマウントディスプレイとVR（バーチャルリアリティ）により、はしごを使った壁面作業を体感し、実際の被災者の視点はどのようなものであったか、リアル体験をする（写真6・7）。〈事故事例〉平成27年10月21日（水）

引込線金物（C金物）を取り付けるため力を入れたことにより、背面方向に力がかかり梯子も壁面より離れ、高さ約2.5メートル下の隣の敷地に梯子と共に転倒し負傷した。

また、同じく第一会場で、株式会社NTTフィールドテクノ九州支店による「衝突回避支援システム体感」が実施されました。

VR（バーチャルリアリティ）とは…

コンピュータグラフィックスで再現した空間に、体験者自身が入り込んでその世界を体験できる技術です。

ヘッドマウントディスプレイを装着して視聴することで、360度の空間全体を仮想体験することができます。

「衝突回避支援システム体感」

【体感概要】

プリクラッシュブレーキシステム（衝突回避支援システム）搭載車を使用して、ドライバーがブレーキ操作を行わなかった場合、障害物を検知しクルマが自動的にブレーキをかけ衝突を回避したり、被害を軽減させるシステムを体感（写真8）。

衝突回避支援システムとは…

低速から中速まで広い車速域で、先行車との衝突の危険性が高まった場合に緊急ブレーキで減速。衝突回避または、被害軽減をサポートするシステムです。

基本動作の効果

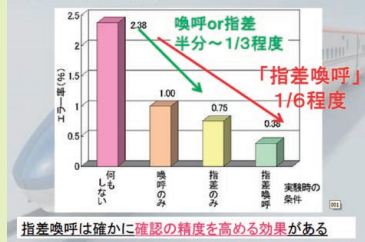


図1 基本動作の効果

指差喚呼の手順（線路に接近する際）

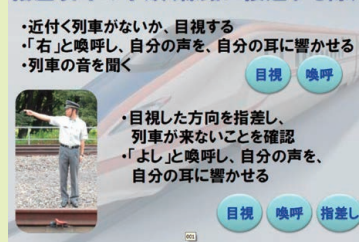


図2 指差喚呼の手順

指差喚呼のポイント

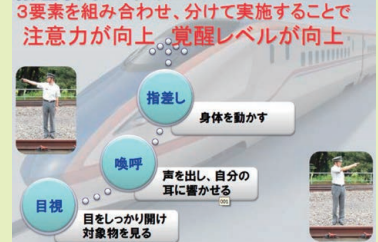


図3 指差喚呼のポイント



写真6 VR危険体感（1Fコーナー）



写真7 VR危険体感（2Fコーナー）



写真8 衝突回避支援システム体感



写真9 ドローン飛行実演



写真10 シャフトドライブウインチ事故実演



写真11 電柱からの転落事故実演



写真12 道路横断架渉中の転落事故実演



写真13 高所作業車の輪止め効果実演

4. 第二会場

午後からは屋外の第二会場に移動し、各社による実演、危険体験コーナー、展示などが行われました。

「ドローン飛行実演」株式会社NTTフィールドテクノ九州支店

【実演概要】

実際にドローンの飛行操縦を行い映像を確認することで、災害時におけるドローンの有効性を体験する（写真9）。

〈体験内容〉

- ①実際にドローンの飛行操縦を体験
- ②画面に映る映像の確認

「シャフトドライブウインチ事故実演」西部電気工業株式会社

【実演概要】

シャフトドライブウインチを使用した作業において、安全装置の不備や操作誤りなどにより衣服などが巻き込まれる事故の実演（写真10）。

〈事故事例〉平成28年5月21日（土）

シャフトドライブウインチで架空ケーブルの牽引作業において、エンジンを停止しないまま牽引ロープを外そうとした際に、右腕を巻き込まれ負傷した。

「電柱からの転落事故実演」西部電気工業株式会社

【実演概要】

柱上作業時、無ロープ状態により転落した事故の実演（写真11）

〈事故事例〉平成29年3月10日（金）
架空ケーブルの架渉作業において、作業員が電柱から転落し死亡した。

「道路横断架渉中の転落事故実演」株式会社SYSKEN

【実演概要】

道路横断箇所、ドロップ光を車両が引っ掛けた際、どのような衝撃があるか実演し、危険性の意識向上につなげる（写真12）。

〈事故事例〉平成29年7月29日（土）
光コラボ新規開通に伴うSO工事にて、道路横断のドロップ光を新設する際に脚立を利用して昇柱する途中、走行してきた車両（ダン

プ）がドロップ光と接触し、作業員が脚立の2段目付近より転落し死亡した。

「高所作業車の輪止め効果実演」株式会社協和エクシオ

【実演概要】

高所作業車（バケット車）による逸走事故事例を紹介。

本来守るべき作業手順やルールを説明し、再発防止の意識付けを行う（写真13）。

〈事故事例〉平成24年12月5日（月）
傾斜角3度の坂道で、高所作業車を前上りに駐車し吊線新設作業を実施後、停車位置変更のためアウトリガーを格納したところ高所作業車が動き出し、停止させようとした作業員が巻き込まれ死亡した。

「小型トラッククレーンの操作実演」日本コムシス株式会社

【実演概要】

吊り荷下における落下事例を紹介し、小型トラッククレーンを安全に使用するうえでの必要な知識、操作方法を実車を用いて本来守るべき作業手順やルールを説明し、再発防止の意識付けを行う（写真14）。

〈事故事例〉平成29年1月10日（火）
トラックから内装品（石膏ボード）をクレーンで荷揚げ中、荷崩れを起こし内装材が1メートルの高さからトラックの荷台に落下



写真14 小型トラッククレーンの操作実演



写真15 危険体感コーナー



写真16 飛び込まれ防止ツール展示

し、荷台上で作業していた被災者（玉掛け作業員）に接触し、その勢いで荷台より転落し死亡した。

「危険体感コーナー」株式会社SYSKEN

【実演概要】

近年の事故を見ると、転倒・転落の事故が多く発生し、また、繰り返し起こっていることから、現場第一線で働く作業員の方々や安全指導を行う工事長・安全専任者の方々にも危険を体感してもらうことで、危険感受性を向上させ“事故ゼロ”を目指す取組みを行う（写真15）。

〈体感内容〉

- ①ペルブロックを使った身体への落下衝撃

表1 出展会社一覧

第一会場展示／紹介 出展会社一覧							
1	(株)ナカオ	11	アンリツ(株)	21	スリーエムジャパン(株)	31	(株)タダノ
2	藤井電工(株)	12	九州電機工業(株)	22	(株)八光電機製作所	32	横河計測(株)
3	東日本電信電話(株)技術協力センター	13	(株)フジクラ	23	高千穂産業(株)	33	日本通信電材(株)
4	(株)NTTファシリティーズ九州支店	14	(株)スズキ技研	24	古河電気工業(株)	34	(株)正電社
5	日本コムシス(株)	15	(株)福岡通信工材製作所	25	(株)成和技研	35	(株)ジャパンリーコム
6	(株)協和エクシオ	16	マサル工業(株)	26	岡野電線(株)	36	大井電気(株)
7	(株)SYSKEN	17	理研計器(株)	27	(株)セフティハウス	37	(株)スカイテクノ
8	(株)トーツー創研	18	大東電材(株)	28	東名通信工業(株)		
9	西部電気工業(株)	19	(株)アイチコーポレーション	29	(株)浅羽製作所		
10	住友電気工業(株)	20	西日本電線(株)	30	エヌ・ティ・ティ・レンタル・エンジニアリング(株)		

表2 出展品（通信建設会社4社）

会社名	出展品名	(展示一例)
日本コムシス株式会社	・脚立固定金具 ・吊り下げ式工事看板 ・活線継込み試験器 ・油圧式ハンドリフター（スエル君）	(写真18)
株式会社協和エクシオ	・ケーブル吊り上げ治具 ・絶縁作業台 ・ケーブルドラムストッパー ・継柱本締め角度スケール ・新あるある君 ・充電式特殊LED投光器 ・多用途LEDライト ・LED表示付セフティスタンド	
株式会社SYSKEN	・狭隘場所における鋼管柱運搬および建込み補助具 ・局内作業台 ・SUDコンパウンド注入治具の開発 ・道路横断など危険箇所の事前把握システム ・施工班と元請との2WAYコミュニケーションシステム	(写真19)
西部電気工業株式会社	・光ドロップケーブル対照器 ・DCH230電柱切断機 ・架渉位置用電柱補強具【改良】 ・TNクロージャ取替フレーム【吊り名人】 ・ラチェットトルクレンチアダプタ ・RSBM浮子防護カバー ・B自在バンド締め付け工具【改】 ・αA1Standard電源防護カバー	(写真20)

- ②梯子・脚立が倒れる時の落下衝撃
③スレート屋根上で踏み割り落下の衝撃

「飛び込まれ防止ツール展示」エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社九州事業部

【展示概要】

道路上でMH（マンホール）入溝作業などを行う場合、車両の飛び込

まれ防止のツールを展示（写真16）
〈展示内容〉

- ①体感マット ②とまるくん ③クッションドラム ④SF信号方式

5. 展示・紹介ブース

第一会場の展示／紹介ブースでは、終日、各通信建設会社・メーカー

等37社による新技術・開発品などの展示が行われました（写真17～20）。



写真17 展示・紹介 ブース全景

6. おわりに

閉会にあたり株式会社NTTネオメイト九州支店取締役 古川支店長から「参加された皆さんそれぞれの立場に応じて、この大会で体験されたことを各職場に展開し、社員1人ひとりが基本作業を再認識し、安全作業の徹底を図るようお願いする。」との閉会の挨拶がありました（写真21）。続いて、株式会社NTTワールドテック九州支店福岡営業所の盛

田社員・田中社員による「決意表明」（写真22）の後、最後に、エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社九州事業部の早田社員のリードにより、参加者全員で「スローガン唱和」を行い閉会しました（写真23）。

最後になりましたが、大変お忙しい中ご出席いただきましたご来賓の皆様、また、大会の諸準備および運営に携わっていただきました関係各位に感謝申し上げますとともに心から御礼申し上げます。



写真18 日本コムシス株式会社 ブース



写真19 株式会社SYSKEN ブース



写真20 西部電気工業株式会社 ブース



写真21 古川支店長閉会挨拶



写真22 「決意表明」盛田社員・田中社員



写真23 「スローガン唱和」早田社員